

留学で自分に自信が持てるようになり積極性が増した

Y. A.

国際基督教大学 教養学部 進学
国立 茨城大学教育学部附属中学校 卒業

私は国際教養コース1期生として3年間生活していました。国際教養コースには、一般コースとは違ったカリキュラムが設定されており、独自の授業や留学での経験を通して学習面や人間性を高めることができました。私は国際教養コース1期生として3年間生活していました。国際教養コースには、一般コースとは違ったカリキュラムが設定されており、独自の授業や留学での経験を通して学習面や人間性を高めることができました。いくつか印象に残った授業を紹介します。1つ目は「プラティカルイングリッシュ」です。この授業は主にグループで活動し、与えられた題材を班の中で役割分担をしてプレゼンテーションやレポートの作成を行います。また授業はALTの先生が担当するため終始オールイングリッシュで行われます。2つ目は「哲学」です。哲学の授業では、みんなで題材とするアイデアを考え、席を円にしてお互いの意見を言い合います。一人ひとり異なる価値観や視点を持っているため、友達の意見に対して「そういう捉え方や考え方があるのか」と驚くなど、共感することが多々あります。このように哲学の授業は、発見とともに自分の視野の狭さや知識の無さに気付かされる刺激的な授業です。またレポート作成時には、自分の複雑な意見を言語化しなければならないため、文章構成力も培うことができます。3つ目は「アカデミック・スキルズ」です。この授業は私が一番成長できたと思える授業です。アカデミック・スキルズはアメリカのカリフォルニア大学デービス校の藤田斉之先生とオンラインで授業を行います。毎週、世界中のタイムリーなトピックに関する意見交換を行ったり、英語の動画をみて感想を言い合ったりします。他にも独自の授業は多くありますが、この3つの授業を受けるだけでも英語力はもちろんのこと、協調性や独創性、文章力、プレゼン力などを身につけることができます。

私は高校の3年間サッカー部に所属し活動していました。活動の中の1つの目標として、リーグの3部昇格を目標としていました。結果としては、リーグ3部に昇格し最終的には、3部リーグの3位まで順位を上げることができました。試合に勝てず悔しい思いもたくさんしましたが諦めずに乗り越えました。今では悔しい気持ちも、仲間と喧嘩したことも、辛い練習もすべてが最高の思い出となりました。次に印象的だった思い出は、高校2年時のカナダ留学です。留学では、現地のカナダ人はもちろんのこと世界中からの留学生と友達になり、お互いの文化や価値観を知ることができました。自分の英語力に不安持っていました、たくさんのことを体験し、挑戦していく過程を通して自分に自信が持てるようになり積極性が増すとともに、自分の意見を発言する大切さや多文化理解の重要性を知ることができました。

中学生の頃から高校で留学すると決めていた私にとって茨高の国際教養コースは理想の高校であり、カリキュラムを見ても興味をそそられるものでした。留学する前も留学中も、先生たちの手厚いサポートのおかげでコロナ禍でも安心して留学することができました。また生活環境もとても良いです。木を多く使用した教室は温かみを感じられます。学習面でも、授業中疑問に思った些細なことでも質問をすると真剣に答えてくれます。私は国際教養だったこともあり一貫生と友達になることは簡単でした。

私は大学進学後も一人の茨高卒業生として日々努力していきたいです。